

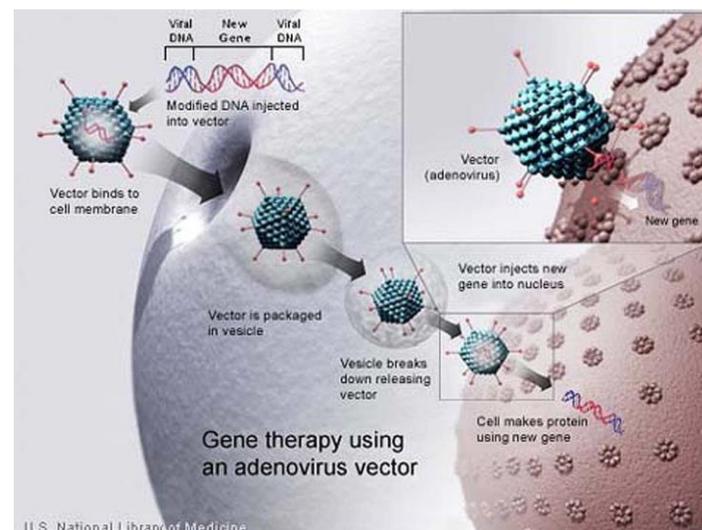
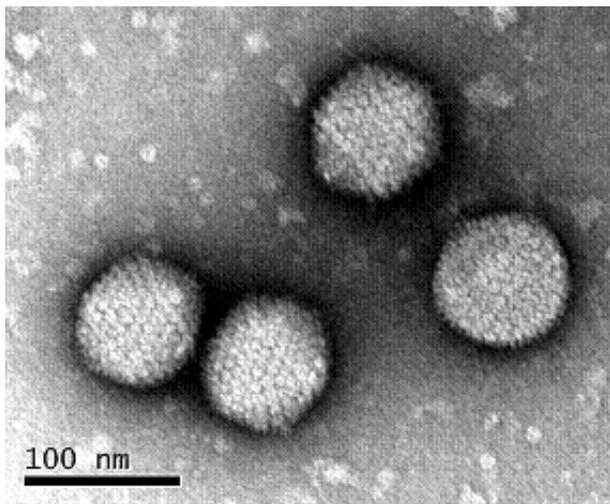


OBP-301 (テロメライシン®)

腫瘍溶解ウイルス

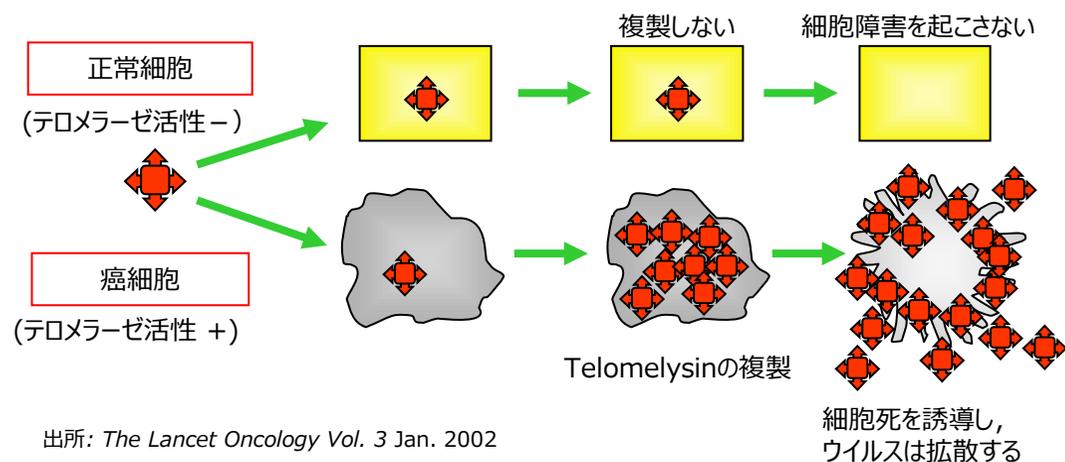
“風邪のウイルスが癌をたたく！”

次世代のがん局所療法



特徴

- ① 癌細胞のみで増殖し、癌細胞を破壊します
- ② 癌組織局所に作用させることができます
- ③ 周辺リンパ節転移腫瘍にも感染し効果を発揮させる可能性があります
- ④ 嘔吐・脱毛・造血器障害などの重篤な副作用は、これまでのところ報告されていません



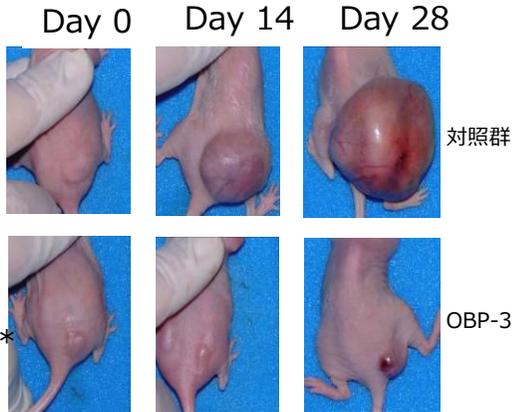
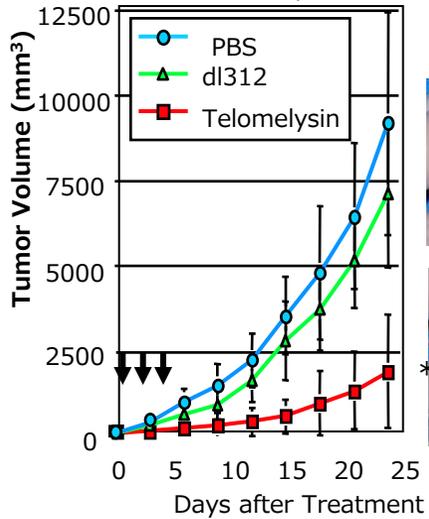
テロメライシン®の抗腫瘍効果

OBP-301を腫瘍内へ直接投与することにより、
毒性を示すことなく腫瘍の増殖を抑制しました

肺癌

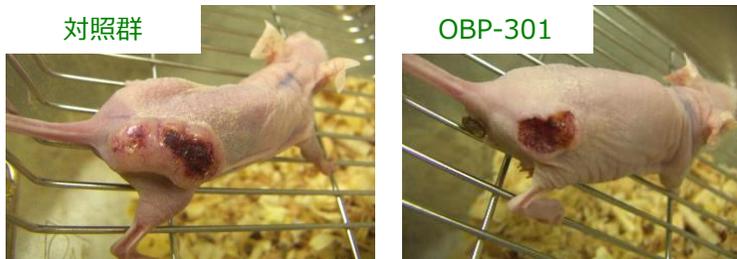
(10e7 PFU 3 3日間投与)

*: $p < 0.01$



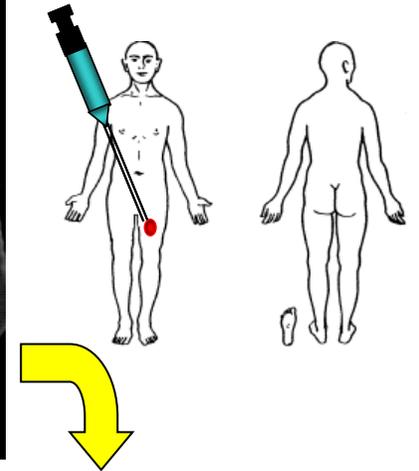
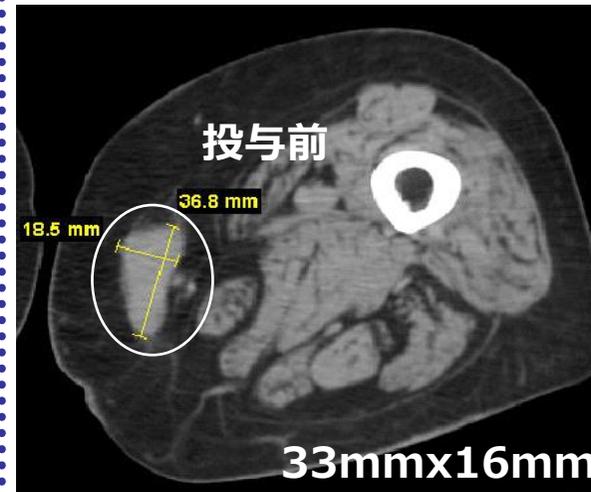
大腸癌

(投与15日後)



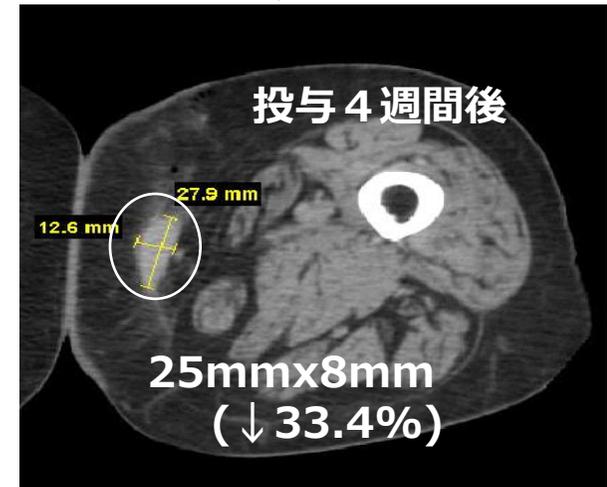
出所: Curr. Cancer Drug Targets, 7: 191-201, 2007

アメリカでのPhase I臨床試験成績



Patient 308

右大腿部へ転移した
黒色腫 (皮膚癌)



次世代の癌局所療法



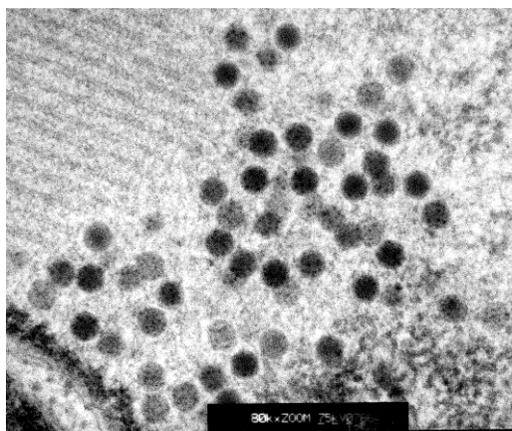
1st

2nd

肝臓癌
食道癌
頭頸部癌



3rd



テロメライシン®のマーケット

● 肝臓癌

米国： 2万1000人

日本： 3万8000人

欧州： 4万8000人

中国： 40万人

**Sorafenib (Bayer社) が
唯一の治療薬**

● 食道癌

米国： 1万6000人

日本： 1万7000人

欧州： 3万3000人

中国： 25万人

**治療薬のスタンダードが
確立されていない**

出所: "GLBOCAN 2008"

The International Agency for Research on Cancer (IRAC)



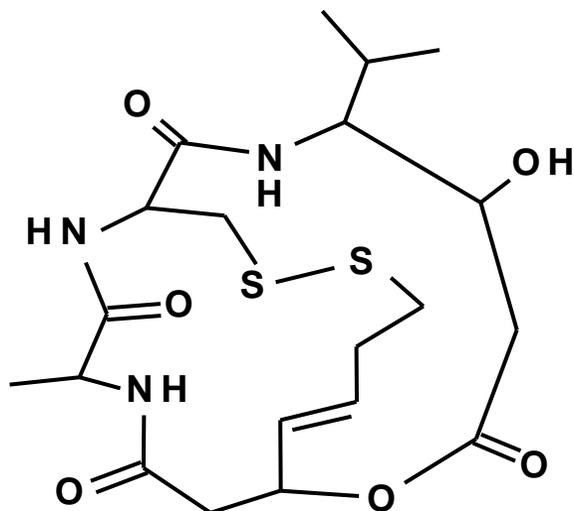
OBP-801

エピジェネティック治療薬

**“後天的発癌メカニズムに迫る,
新規分子標的抗癌剤”**

OBP-801とは

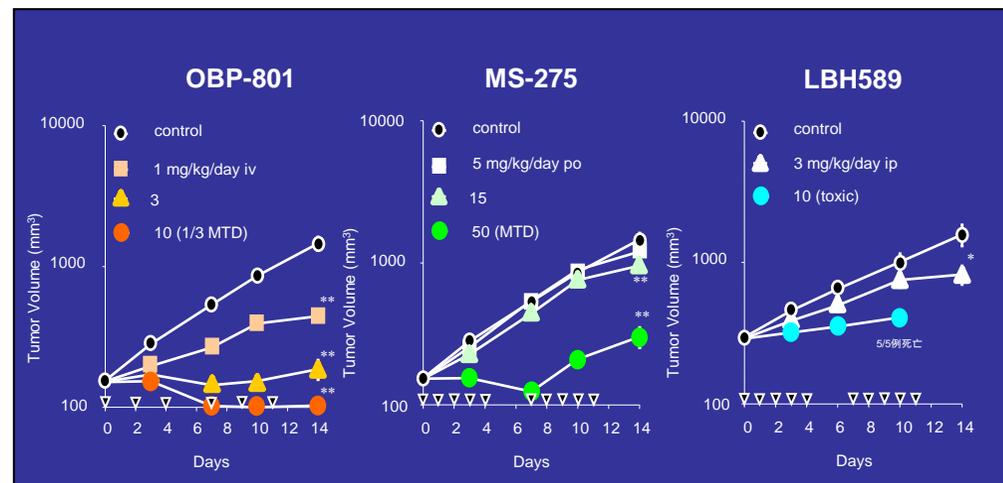
アステラス製薬より導入した分子標的抗癌剤（HDAC阻害剤）です



競合HDAC阻害剤の活性

化合物名	IC ₅₀ (nM)	相対活性
OBP-801	2.0±0.2	54.4
Istodax® (FK-228)	3.1±0.1	35.1
Zolinza® (Vorinostat)	108.8±11.3	1
LBH589	8.1±0.9	13.4
MS-275	>10000	0.0109

出所：Int J Oncol. 2008 Mar;32(3):545-55.



OBP-801と他社HDAC阻害剤の効果比較

出所：京都府立医科大学 酒井教授ご提供

対象癌種は“再発性腎臓癌”

OBP-801のマーケット

● 腎臓癌

米国： 5万6000人

日本： 1万4000人

欧州： 7万3000人

中国： 3万2000人

主な治療薬

Everolims (Novartis)

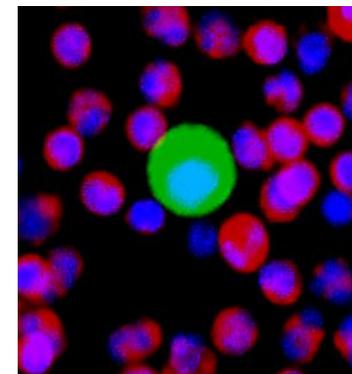
Sorafenib (Bayer)

Sunitinib (Pfizer)

Axitinib (Pfizer)

出所: "GLBOCAN 2008"

The International Agency for Research on Cancer (IRAC)



OBP-1101

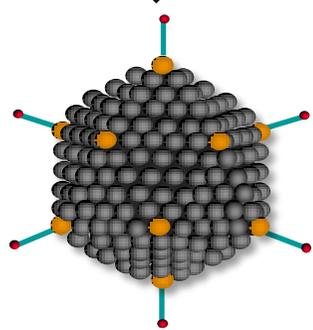
(テロメスキャンF35)

**“見えない癌を可視化して、
癌の超早期発見を目指す”**

癌細胞が光るしくみ



GFP遺伝子

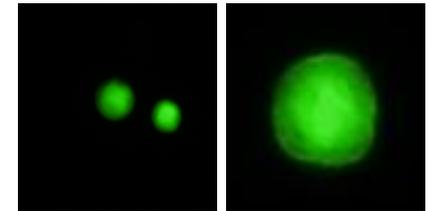
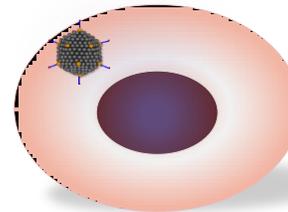


テロメスキャンF35

感染

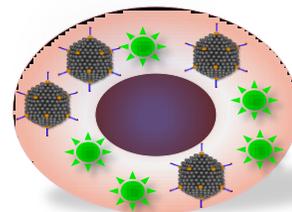
正常細胞

テロメラーゼ活性 (-)

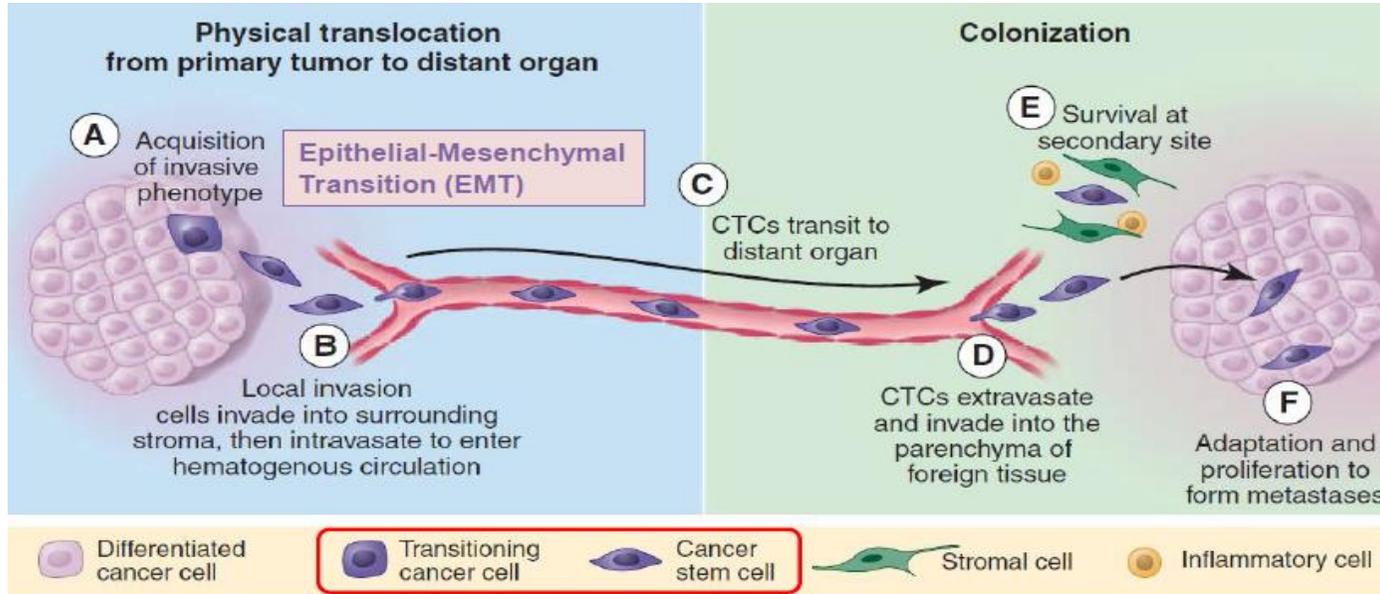


がん細胞(L-CTC)

テロメラーゼ活性 (+)



血中浮遊癌細胞 (CTC) とは



出所 : Chaffer CL and Weinberg RA, *Science*, **331**:1559-1564 (2011)

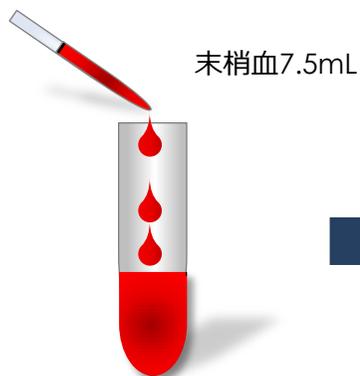
現存の癌マーカーの検出率は30-40%

PETやMRIでは, 癌が1cmになって発見可能

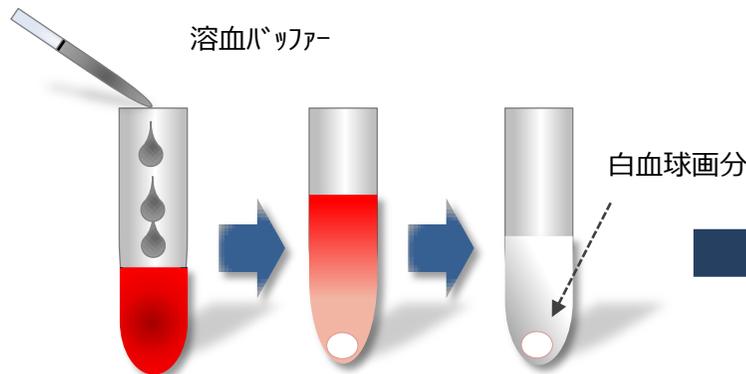
MRIやPETで発見できない癌からも, CTCが漏出している

CTC検査プラットフォーム

① 採血・輸送

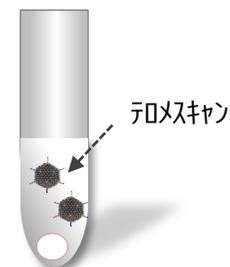


② 赤血球の溶血・除去



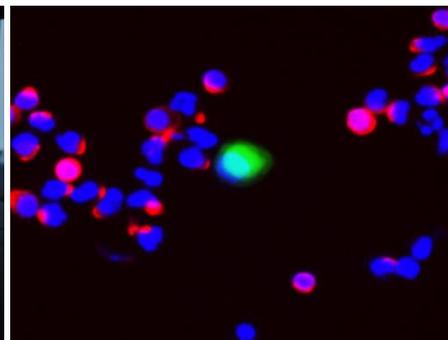
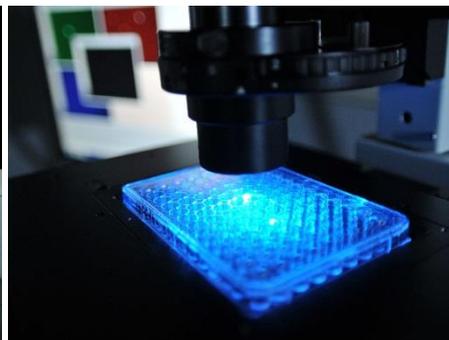
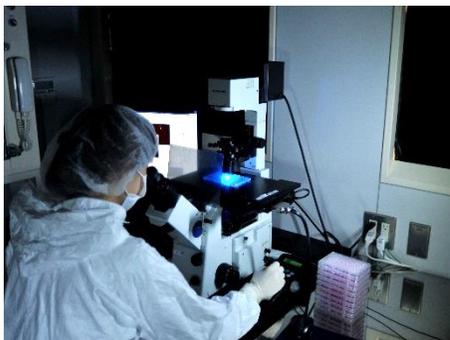
③ ウイルス感染

テロメスキャンを添加し、36°C
で24時間感染



④ 免疫染色

⑤ GFP陽性細胞検出



病院では患者様の
血液を採取
するだけ

臨床試験の成績

GFP蛍光像

免疫染色

明視野

CD45/CD14

Cytokeratin

Vimentin

重ね合わせ像

透過像

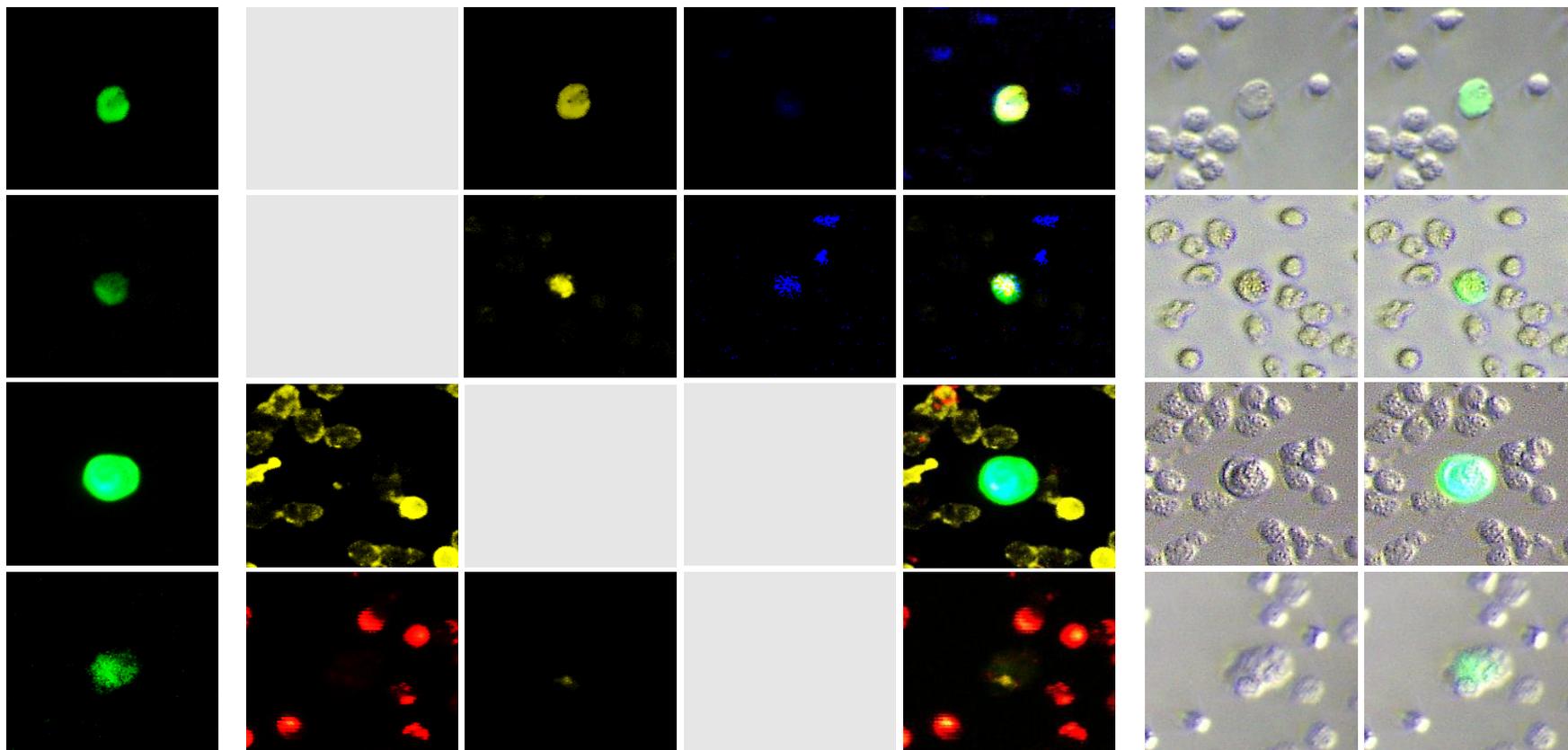
GFP + 透過像

肺癌

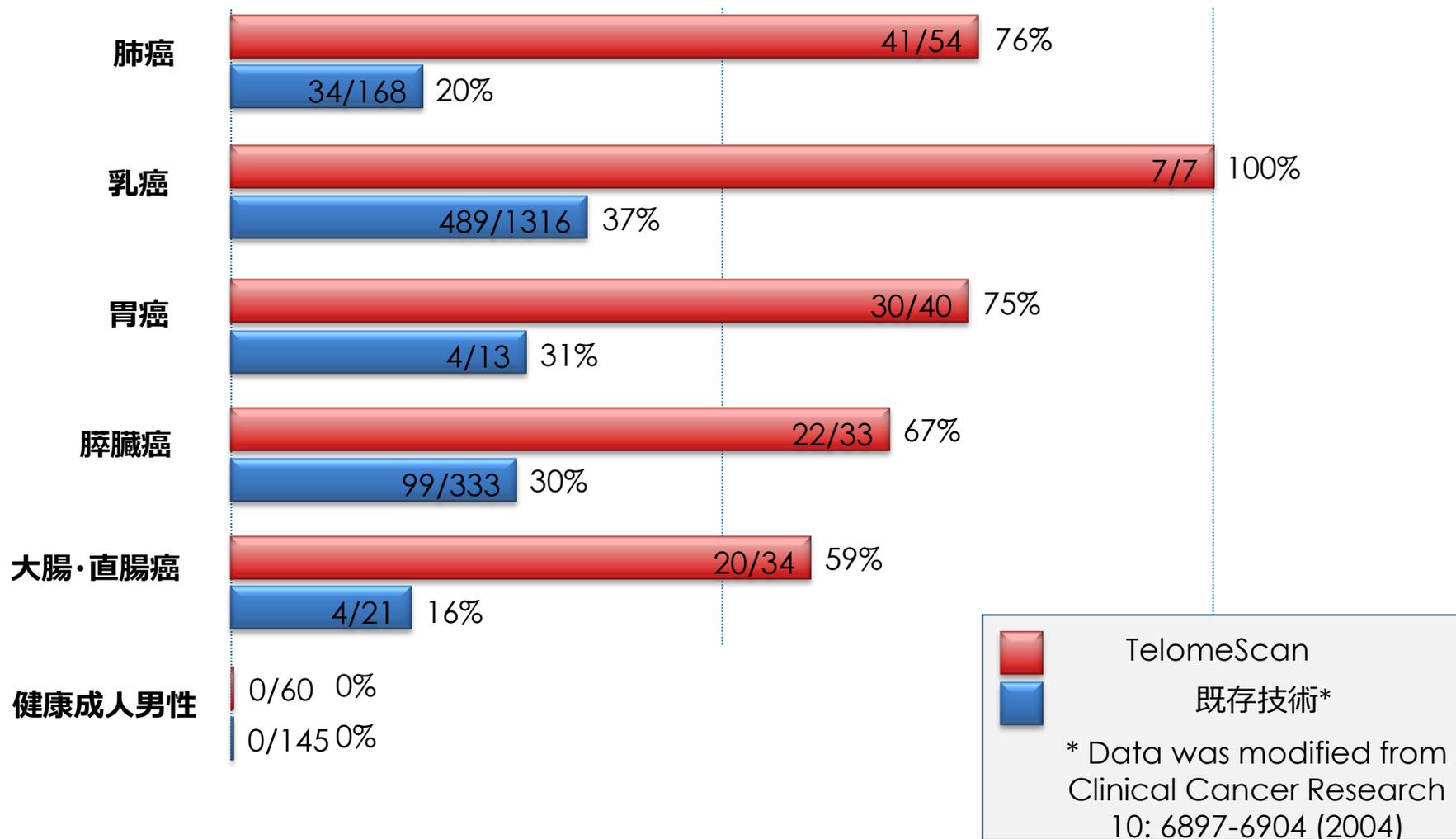
乳癌

胃癌

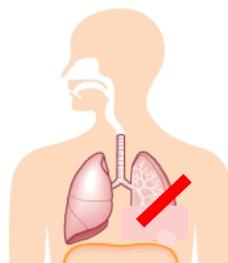
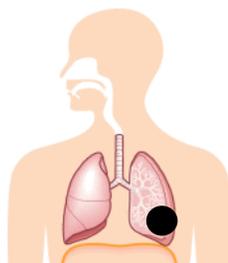
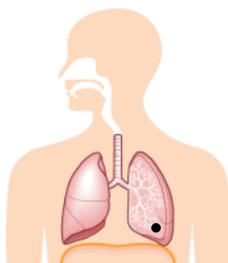
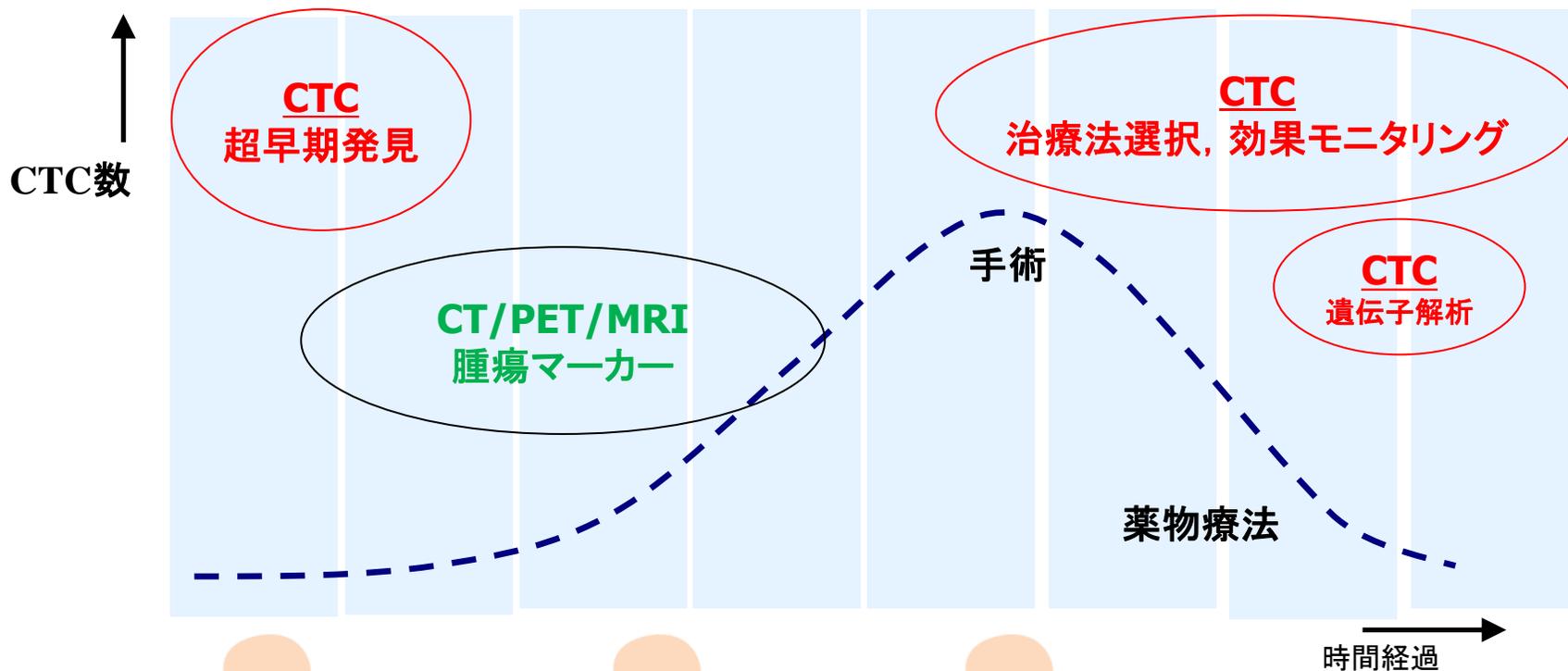
大腸癌



テロメスキャンのCTC検出率



幅広いステージでCTCは応用可能



オンコリスのポリシー

ウイルス学に立脚した創薬技術によって、
癌や重症感染症の新しい治療法を開拓して、
世界の医療に貢献したいと考えています

本資料の取扱いについて

- 本資料はオンコリスバイオフーマ株式会社(以下、当社という)を御理解頂くために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている将来の見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲で判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因の変化等により、本資料掲載の見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。
- 将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性を内在しております。
- 今後、新たな情報や将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新、修正を行う義務を負うものではありません。